

2022年度(2023年3月期) 第2四半期 決算説明会

2022年 10月 28日
セイコーエプソン株式会社



■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

- 本説明資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、公表時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな要素により、記載された見通しと大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素としては、日本および海外の経済情勢、市場におけるエプソンの新製品・新サービスの開発・提供とそれらに対する需要の動向、価格競争を含む他社との競合、テクノロジーの変化、為替の変動などが含まれます。
なお、業績などに影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

■ 事業利益について

- 事業利益は、売上収益から 売上原価、販売費及び一般管理費を控除して算出しています。連結包括利益計算書上に定義されていない指標であるものの、日本基準の営業利益とほぼ同じ概念であることから、連結財務諸表の利用者がエプソンの業績を評価する上でも有用な情報であると判断し、追加的に開示しています。

■ 本説明資料における表示方法

- 数値:表示単位未満を切り捨て
- 比率:円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入
- 年度:断りが無い限り、会計年度を示す

- ご説明のポイント
- 第2四半期実績
- 2022年度通期業績予想・株主還元
- トピックス

■ 第2四半期実績(前年同期比)

売上収益 3,352億円(+668億円)、事業利益 268億円(+13億円)、四半期利益 237億円(+47億円)

- 供給制約の継続、部材費・物流費の高騰によるマイナス影響があった中、需給バランスに応じた価格対応を実施。
売上収益、事業利益、四半期利益で為替変動によるプラス影響を受ける

※7/29前回予想の前提となる社内計画に対しては、売上収益は計画並、事業利益は約60億円上回る。主にビジュアルコミュニケーションが上振れ

■ 2022年度 通期業績予想(7/29前回予想比)

売上収益 13,900億円(+300億円)、事業利益 1,000億円(据え置き)、当期利益 820億円(+80億円)

- 前回予想に対して、供給制約の改善遅れによる販売数量の下方修正や、中国市場のさらなる減速を織り込む
- 価格対応や費用コントロールを継続することで、売上収益は上方修正、事業利益は据え置く
- 当期利益は第2四半期の為替差益などを受け上方修正

- 本日のご説明のポイントはご覧の通りです。
- 第2四半期の実績は、前年同期に対して、半導体調達難による供給制約が継続したことに加え、部材費・物流費の高騰によるマイナス影響も受けました。こうした中、需給バランスに応じた価格対応や円安によるプラス影響もあり、増収、増益となりました。
- 通期業績予想は、前回予想に対して、供給制約の改善遅れによる販売数量の下方修正や、中国市場のさらなる減速を織り込みますが、価格対応や費用コントロールを継続することで、事業利益は据え置きます。
- 詳細は、次のスライド以降でご説明します。

- ご説明のポイント
- **第2四半期実績**
- 2022年度通期業績予想・株主還元
- トピックス

	2021年度		2022年度		対前年同期		
	(億円)	Q2実績	%	Q2実績	%	増減額	増減率
売上収益		2,684		3,352		+668	+24.9%
事業利益		254	9.5%	268	8.0%	+13	+5.4%
営業利益		244	9.1%	279	8.3%	+34	+14.2%
税引前利益		243	9.1%	346	10.3%	+103	+42.4%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益		190	7.1%	237	7.1%	+47	+24.7%
EPS*1(円)		54.93		68.87			
為替レート (円、指数)	USD	¥110.08		¥138.30			
	EUR	¥129.77		¥139.28			
	その他通貨*2	100		118			
			為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他通貨 合計	合計
			売上収益	+241	+35	+164	+440
			事業利益	-79	+22	+74	+17

*1 EPS:基本的1株当たり当期利益

*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて
加重平均した値について、前年同期を100とした指数

- はじめに、第2四半期の実績についてご説明します。
- 売上収益は、前年同期に対して 668億円 増収の 3,352億円、事業利益は、13億円 増益の 268億円となりました。
- 為替による影響は、売上収益に 440億円、事業利益に 17億円のプラスがありました。
- 当四半期は、第1四半期と同様にドル高が進んだことで、その他営業収益および金融収益に為替差益を計上した結果、四半期利益は、前年同期に対して 47億円 増益の 237億円となりました。
- なお、前回予想の前提となる社内計画に対して売上収益は、プリンティングソリューションズとマニュファクチャリング関連・ウェアラブルが若干の未達となりましたが、ビジュアルコミュニケーションが計画を大幅に上回りました。
- その結果、売上収益は概ね計画並となり、事業利益は約60億円上回りました。

プリンティングソリューションズ		2021年度 Q2実績	2022年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益		1,832	2,155	+322	+286	+17.6%
セグメント利益		283	186	-97	-17	-34.2%
セグメント利益率		15.5%	8.7%			

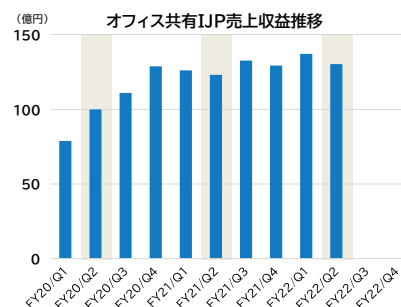
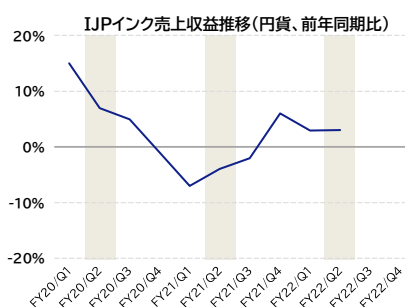
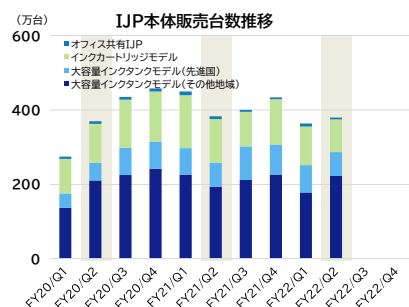
オフィス・ホームプリンティング		2021年度 Q2実績	2022年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益		1,298	1,511	+213	+202	+16.4%
オフィス・ホームIJP(SOHO・ホームIJP)		1,006	1,210	+203		+20.2%
オフィス・ホームIJP(オフィス共有IJP)		123	130	+7		+5.7%
その他*		168	171	+2		+1.7%
事業利益		187	101	-86	-34	-45.9%
事業利益率		14.5%	6.7%			

■ プリンティングソリューションズ

- ▶ 半導体調達難で供給制約がある中、需給バランスを踏まえた価格対応などで増収、部材費・物流費の高騰などにより減益

■ オフィス・ホームプリンティング

- ▶ IJP本体は、販売数量は前年同期並に なったものの、価格対応や為替影響により増収
- ▶ IJPインクは大容量インクボトルの販売増加
- ▶ 部材費、物流費の高騰影響に加え、ドル高によるマイナス影響を受けて減益



© Seiko Epson Corporation 2022

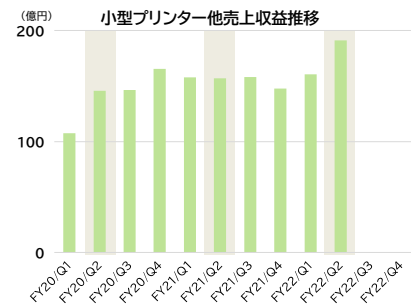
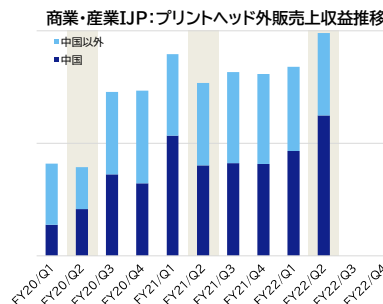
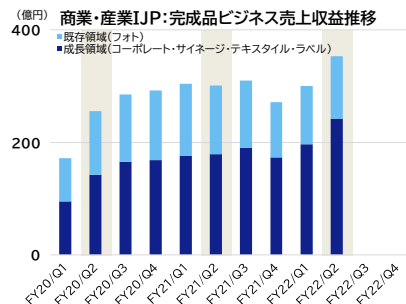
6

- ▶ プリンティングソリューションズの実績はご覧のとおりです。
 - ▶ 前年同期に対して、売上収益は、322億円 増収の 2,155億円となりました。
 - ▶ セグメント利益は、97億円 減益の 186億円となりました。
-
- ▶ オフィス・ホームプリンティングは、増収・減益となりました。
 - ▶ IJP本体の販売台数は、半導体調達難による供給制約の影響を受け、前年同期並に留まりました。インクカートリッジモデルが減少した一方、低コストでの印刷需要を捉え、戦略商品である大容量インクタンクモデルが伸長しました。
 - ▶ IJP本体の売上は、需給バランスに応じた価格対応や為替影響により、大幅な増収となりました。
 - ▶ インクは、インクカートリッジの販売が減少したものの、大容量インクボトルの増加に加え、為替影響により3%の増収となりました。
 - ▶ なお、オフィス共有IJPは、低消費電力の環境性能などの理解浸透が進んだものの、供給制約により販売伸長は限定的でした。
-
- ▶ オフィス・ホームプリンティングの事業利益は、部材費、物流費の高騰影響に加え、ドル高によるマイナス影響を受けて、減益となりました。
-
- ▶ なお社内計画比では、IJP本体の販売数量が供給制約により未達となったものの、価格対応などを実施したことで、売上収益、事業利益ともに概ね計画並となりました。

商業・産業プリンティング	(億円)		増減率		
	2021年度 Q2実績	2022年度 Q2実績	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	534	643	+108	+84	+20.4%
商業・産業IJP	377	452	+74		+19.8%
小型プリンター他	156	191	+34		+21.8%
事業利益	96	85	-10	+16	-11.3%
事業利益率	18.0%	13.2%			

■ 商業・産業プリンティング

- 商業・産業IJPの完成品ビジネスは、中国での市場冷え込みや本体の供給制約があったものの、成長領域の販売伸長
- プリントヘッド外販ビジネスは、輸出も手掛ける中国の印刷機メーカーの引き合いも強く増収
- 小型プリンター他は、小売業界や飲食業界などの需要は強く、供給制約の改善が進み増収
- 事業利益は、フォト領域における顧客のインク調達調整や、完成品ビジネス拡大に向けた費用投下の継続、部材費・物流費の高騰などにより減益



- 商業・産業プリンティングは、為替変動によるプラス影響もあった中、増収・減益となりました。
- 商業・産業IJPの完成品ビジネスは、中国でのゼロコロナ施策による市場の冷え込みや、本体での供給制約があったものの、サインージやテキスタイルなどの成長領域を中心に増収となりました。
- プリントヘッド外販ビジネスは、輸出も手掛ける中国の印刷機メーカーの引き合いも強く、増収となりました。
- 小型プリンター他は、小売業界や飲食業界などの需要は強く、供給制約の改善が進んだことで、増収となりました。
- 一方、事業利益は、フォト領域における顧客のインク調達調整や、完成品ビジネス拡大に向けた費用投下の継続、部材費・物流費の高騰などにより、減益となりました。
- なお社内計画比では、売上収益は計画を上回り、事業利益は若干の未達となりました。

ビジュアルコミュニケーション	2022年度 Q2実績		増減額		増減率
	2021年度 Q2実績	2022年度 Q2実績	増減額	内為替影響額	
売上収益	399	635	+235	+91	+59.1%
セグメント利益	47	127	+79	+11	+169.0%
セグメント利益率	11.8%	20.0%			

■ ビジュアルコミュニケーション

- ▶ 欧米の教育向けを中心に需要は好調、部材調達難の改善により、受注残の解消が進み販売台数が増加
- ▶ モデルミックスの改善や価格対応、為替影響により増収・増益

◆ プロジェクターの販売動向^{*1}

	2021年度 Q2実績	2022年度 Q2実績
売上収益(円貨)	+7%	+60%
売上収益(現地通貨)	+1%	+37%
販売台数	-2%	+22%

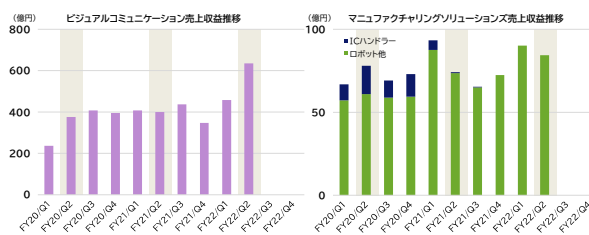
*1 社内管理簿に基づく指標
伸長率は前年同期比

■ マニファクチャリング関連・ウェアラブル

- ▶ マイクロデバイス他が好調で増収・増益
- マニファクチャリングソリューションズは、ロボットの供給制約がある中、自動車や医療向けの案件獲得が進み増収
- ウェアラブル機器は、国内向けウオッチを中心に増収
- マイクロデバイス他は、スマートフォン向けなど一部民生市場が軟調だったものの、車載向けなど幅広い用途で需要は旺盛

マニファクチャリング関連 ウェアラブル	2022年度 Q2実績		増減額		増減率
	2021年度 Q2実績	2022年度 Q2実績	増減額	内為替影響額	
売上収益	458	572	+113	+67	+24.7%
マニファクチャリングソリューションズ ^{*2}	74	84	+10		+13.8%
ウェアラブル機器	80	93	+13		+16.7%
マイクロデバイス他	268	351	+83		+30.9%
PC	43	53	+10		+23.1%
事業間売上収益	-7	-11	-3		-
セグメント利益	56	94	+37	+25	+67.5%
セグメント利益率	12.2%	16.4%			

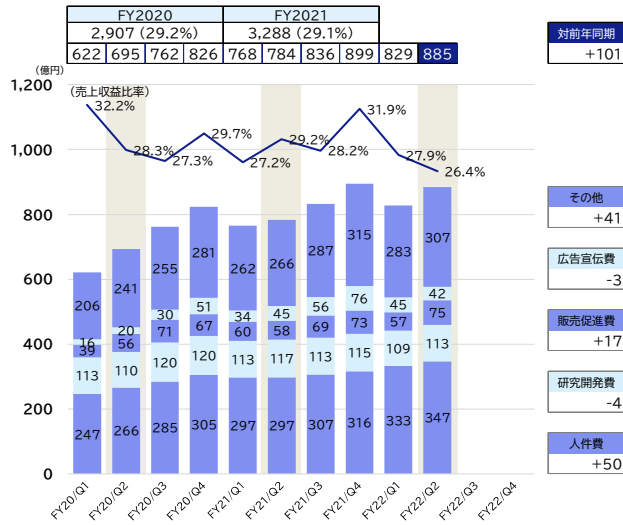
*2 ICハンドラー事業は2021年4月に譲渡



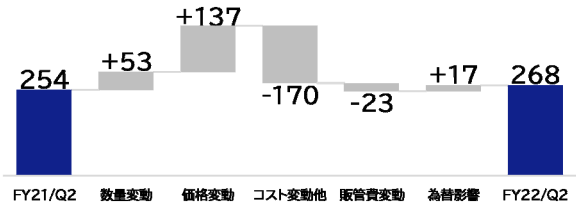
- ▶ ビジュアルコミュニケーションは、欧米の教育向けを中心にプロジェクターの需要は好調で、部材調達難の改善により受注残の解消が進み、前年同期に対して販売台数が増加しました。さらに、モデルミックスの改善や価格対応、為替変動によるプラス影響を受け、売上収益は 235億円増収の 635億円となりました。
- ▶ セグメント利益は、79億円増益の 127億円となりました。
- ▶ 社内計画比では、売上収益・事業利益ともに、大幅に計画を上回りました。
- ▶ マニファクチャリング関連・ウェアラブルは、為替影響もあり、売上収益は 113億円増収の 572億となりました。
- ▶ マニファクチャリングソリューションズは、部材調達難による供給制約に加え、中国でのスマートフォン向け需要が軟調だったものの、米州で自動車や医療向けの案件獲得が進んだことなどにより、増収となりました。
- ▶ ウェアラブル機器は、個人消費の改善を背景に、国内向けウオッチを中心に増収となりました。
- ▶ マイクロデバイス他は、スマートフォン向けなど一部の民生市場が軟調だったものの、車載向けなど幅広い用途で需要は旺盛で、平均単価の上昇もあり、増収となりました。
- ▶ セグメント利益は、マイクロデバイスが好調だったことに加え、為替影響もあり、37億円増益の 94億円となりました。
- ▶ 社内計画比では、売上収益、事業利益ともに、概ね計画並となりました。

販管費変動：主に為替影響(+78億円)により増加

販売費及び一般管理費推移



事業利益の変動要因 (億円)



数量変動

+ プロジェクター、マイクロデバイス、大容量インクタンクモデル、プリントヘッド、小型プリンター、ウオッチなど
 - IJPインクカートリッジ、商業・産業IJPフォト領域など

価格変動

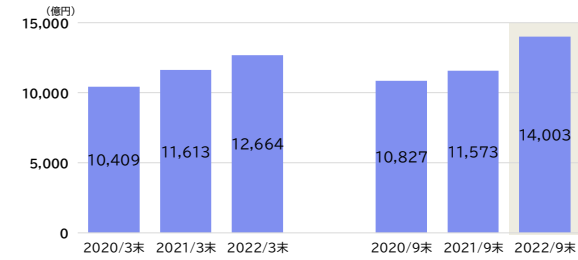
+ オフィス・ホームIJP、プロジェクター、マイクロデバイス、商業・産業IJPなど

コスト変動他

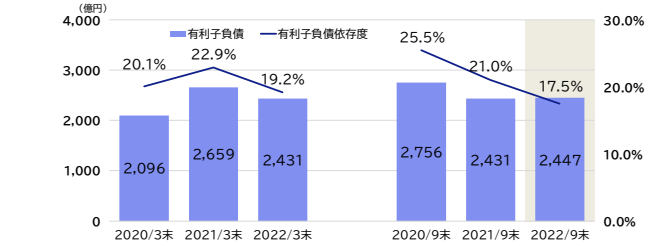
- 部材費・物流費の上昇、在庫影響など

- 販売費および一般管理費推移は、左のグラフの通りです。
- 販管費の増加は、主に為替影響によるものです。
- 販管費率は 26.4%となり、引き続き、効率的な執行を継続しています。
- 事業利益の変動要因を、右のグラフでご説明します。
- 数量は、プロジェクターやマイクロデバイス、大容量インクタンクモデルでプラスとなりました。
- 価格は、需給バランスに応じた価格対応を行ったことでプラスです。
- コスト変動他は、主に部材費や物流費の増加、在庫影響などによりマイナスとなりました。

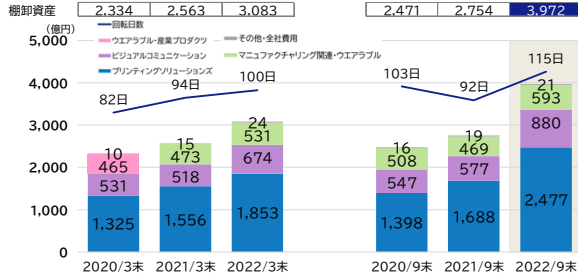
資産合計



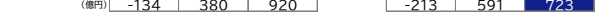
有利子負債・有利子負債依存度



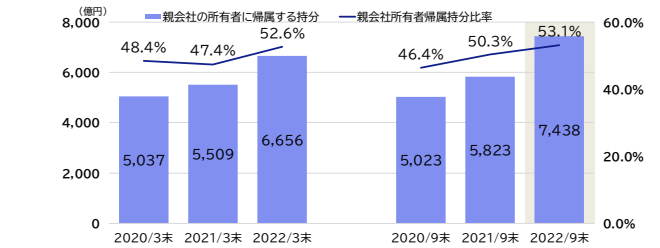
棚卸資産・回転日数



ネットキャッシュ



親会社の所有者に帰属する持分・親会社所有者持分比率



*回転日数(3月末)→連結会計期間末棚卸資産残高/連結会計期間末直前12ヶ月間の1日当たり売上収益
*回転日数(9月末)→連結会計期間末棚卸資産残高/連結会計期間末直前6ヶ月間の1日当たり売上収益

- 財政状態計算書の主要項目は、ご覧のとおりです。
- 棚卸資産は、為替影響に加え、下期の販売に向けた仕掛品や洋上在庫の増加により、3,972億円となり、回転日数は115日となりました。
- 期末に向けて、サプライチェーンの正常化による在庫減少を見込みます。

- ご説明のポイント
- 第2四半期実績
- **2022年度通期業績予想・株主還元**
- トピックス

2022年度 通期業績予想 | ハイライト

	2021年度		2022年度				増減額/増減比		
	(億円)	実績	%	7/29予想	%	今回予想	%	対前期	対7/29予想
売上収益		11,289		13,600		13,900		+2,610 +23.1%	+300 +2.2%
事業利益		896	7.9%	1,000	7.4%	1,000	7.2%	+103 +11.6%	- -
営業利益		944	8.4%	1,020	7.5%	1,080	7.8%	+135 +14.3%	+60 +5.9%
税引前利益		971	8.6%	1,050	7.7%	1,170	8.4%	+198 +20.4%	+120 +11.4%
親会社の所有者に帰属する 当期利益		922	8.2%	740	5.4%	820	5.9%	-102 -11.1%	+80 +10.8%
EPS*1 (円)		266.73		213.86		240.11			
為替レート (円、指数)	USD	¥112.37		¥131.00		¥137.00			
	EUR	¥130.55		¥135.00		¥138.00			
	その他通貨*2	100		112		114			

*1 EPS：基本的1株当たり当期利益

*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて
加重平均した値について、前期を100とした指数

*3 USD/EURは1円の円高による年間影響額 (億円)
その他通貨は1%の円高による年間影響額 (億円)

第3四半期以降の
為替前提(円)

USD 141.00
EUR 137.00

為替感応度*3
(億円)

USD

EUR

その他通貨
合計

年間為替
影響額見込み

売上収益	-32	-14	-35	+1,500
事業利益	+7	-9	-17	+90

- 続きまして、通期業績予想をご説明します。
- 売上収益は、前回予想から 300億円 上方修正し 1兆3,900億円、事業利益は 1,000億円を据え置きます。
当期利益は、上期に発生した為替差益などを反映し、80億円 上方修正となる 820億円としました。
- 第3四半期以降の為替前提は、直近の状況を踏まえ、USD 141円、EUR 137円としました。
- 前年度からの為替変動による影響は、売上収益で 1,500億円、事業利益で 90億円のプラスを見込みます。
- なお、前回予想に対しては為替前提を円安に見直したため、売上収益には約300億円のプラスがありますが、事業利益への影響は軽微です。

通期業績予想の前提変化(7/29前回予想比較)

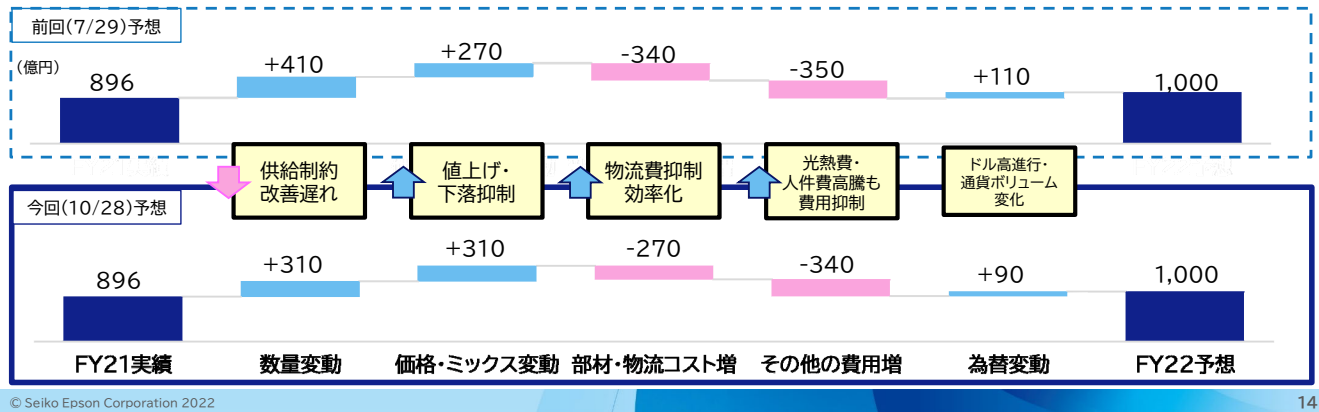
- サプライチェーンの改善が進むが、下期には世界経済の減速リスクを織り込む
- FY22にチャネル在庫の適正化を進めていく前提に変わりはない
- 大容量インクタンクモデルは、供給制約がある中、多様な印刷需要を捉えている。引き続き、新興国に加え先進国での販売を強化

	FY21 下期	FY22 上期	FY22 下期	10/28通期業績予想の前提
需要			前回 ↓ 今回	✓ インフレの継続による消費冷え込みリスク、地政学リスク、中国の景気減速など、世界経済の不透明感が高まる
供給制約				✓ 下期に供給制約の改善が進むという前提に変わりはない <ul style="list-style-type: none"> ・ IJPで半導体の調達難の改善に若干の遅れ ・ 物流混乱は想定以上に改善
コスト			前回 ↓ 今回	✓ 部材高騰のペースは鈍化 ✓ 物流効率化などにより物流費の抑制が進む

- 通期業績予想について、前回からの前提変化をご説明します。
- 需要は、インフレの継続による消費冷え込みリスクや、地政学リスク、中国の景気減速など、世界経済の不透明感が高まっています。
- 供給制約は、IJPで半導体調達難の改善に若干の遅れはありますが、物流混乱も落ち着きを見せており、下期に供給制約の改善が進むという前提に変わりはありません。
- コストについては、物流効率化などによる物流コストの抑制を見込みます。
- これらを踏まえ、マイクロデバイスやロボットで中国市場の減速を織り込みます。IJPは、まずはチャネル在庫の適正化を進めていくという前提に変わりはありません。
- また、新型コロナウイルス発生以降、従来のオフィス印刷が家庭やSOHOなどに分散しています。
- インクカートリッジは在宅印刷需要の落ち着きに伴う影響を受けているものの、低コスト印刷が特長の大容量インクタンクモデルのインクは、多様な印刷需要を捉え、引き続き伸長しています。
- エプソンは今後も、新興国だけでなく先進国でも、家庭やビジネスなど、さまざまな印刷需要に応えられる大容量インクタンクモデルの販売を強化する方針にも変わりはありません。

<前回予想からの変化>

- IJPの供給制約は、改善に若干の遅れ
 - 販売価格は足元の状況を踏まえ、値上げ、価格下落抑制を見込む
 - 人件費や光熱費の増加を見込むものの、物流費効率化など費用抑制を継続
- ※ 供給数量を確保できない場合は、さらなる価格対応・費用コントロールを実施



- 前回予想との比較で、事業利益の増減要因をご説明します。
- 数量変動は、IJPの供給制約の改善が遅れ、前回予想よりも減少します。
- 一方で、価格・ミックス変動は、足元でも想定より高値で推移しており、下期の価格下落前提も見直しました。
- 部材・物流コストは、数量変動に伴う減少や、物流効率化による抑制を織り込みました。
- その他の費用は、人件費や光熱費の高騰影響を受けるものの、固定費の抑制を継続します。
- このような前提ではありますが、変化に対しては、引き続き、需給バランスに応じた価格対応や、費用コントロールを実施し、利益を確保していきます。

プリンティングソリューションズ	2021年度実績	2022年度7/29予想	2022年度今回予想	対前期増減額	対前期増減率	(億円) 対7/29予想
売上収益	7,799	9,340	9,500	+1,700	+21.8%	+160
セグメント利益	1,064	1,030	1,030	-34	-3.3%	-
セグメント利益率	13.7%	11.0%	10.8%			

オフィス・ホームプリンティング	2021年度実績	2022年度7/29予想	2022年度今回予想	対前期増減額	対前期増減率	対7/29予想
売上収益	5,663	6,770	6,890	+1,226	+21.7%	+120
オフィス・ホームIJP(SOHO・ホームIJP)	4,453	5,340	5,410	+956	+21.5%	+70
オフィス・ホームIJP(オフィス共有IJP)	511	620	670	+158	+31.0%	+50
その他*	698	810	810	+111	+15.9%	-
事業利益	730	650	670	-60	-8.3%	+20
事業利益率	12.9%	9.6%	9.7%			

商業・産業プリンティング	2021年度実績	2022年度7/29予想	2022年度今回予想	対前期増減額	対前期増減率	対7/29予想
売上収益	2,136	2,570	2,610	+473	+22.2%	+40
商業・産業IJP	1,515	1,780	1,800	+284	+18.8%	+20
小型プリンター他	620	790	810	+189	+30.5%	+20
事業利益	333	380	360	+26	+7.8%	-20
事業利益率	15.6%	14.8%	13.8%			

■ オフィス・ホームプリンティング

- ・オフィス・ホームIJPが、供給制約の改善遅れにより販売数量を前回予想から下方修正、需給バランスに応じた価格対応継続
- ・事業利益は、ドル高によるマイナス影響を受ける

■ 商業・産業プリンティング

- ・売上収益は為替影響により上方修正
- ・事業利益には、第2四半期の状況を踏まえ、マクロ環境のリスクなども織り込む

◆ 販売動向(社内管理値に基づく指標)	FY21実績	FY227/29予想	FY22今回予想	
オフィス・ホームIJP 本体販売数量	伸長率 約、万台	+8%	+10%	+8%
内 大容量インクタンクモデル	1,670	1,840	1,800	
内 SOHO・ホーム向けI/Cモデル	1,160	1,330	1,330	
内 オフィス共有IJP	480	480	440	
(円貨)	30	30	30	
オフィス・ホームIJP インク売上収益伸長率	(現地通貨) -6%	+7%	+8%	

- 続いて、事業セグメント別の業績予想をご説明します。
- プリンティングソリューションズは、
売上収益は 160億円 上方修正し 9,500億円、
セグメント利益は 1,030億円を据え置きます。
- オフィス・ホームプリンティングは、
IJP本体の販売台数が、供給制約の改善が遅れることで、
前年度に対しては 8%増となる 1,800万台に下方修正します。
- 一方、下期の想定価格を、足元の状況も踏まえて見直したことに加え、
為替影響により、売上収益は上方修正します。
- 事業利益は、ドル高によるマイナス影響を受けませんが、上方修正します。
- 商業・産業プリンティングは、為替影響により売上収益は上方修正します。
- 事業利益には、第2四半期の状況を踏まえ、
マクロ環境のリスクなども織り込みました。

ビジュアルコミュニケーション	2021年度 実績	2022年度 7/29予想	2022年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対7/29 予想
売上収益	1,590	1,980	2,180	+589	+37.1%	+200
セグメント利益	153	210	250	+96	+62.8%	+40
セグメント利益率	9.7%	10.6%	11.5%			

■ ビジュアルコミュニケーション

- 教育向けやスマートプロジェクターの強い需要は継続
- モデルミックス改善や価格対応を実施した第2四半期の状況を織り込む

◆ プロジェクターの販売動向^{*1}

	2021年度 実績	2022年度 7/29予想	2022年度 今回予想
販売台数(約、万台)	170	190	190
+1社内管理値に基づく指標 伸長率は前年同期比	伸長率	+2%	+9%

マニファクチャリング関連 ・ウェアラブル	2021年度 実績	2022年度 7/29予想	2022年度 今回予想	対前期 増減額	対前期 増減率	(億円) 対7/29 予想
売上収益	1,919	2,320	2,260	+340	+17.7%	-60
マニファクチャリングソリューションズ ^{*2}	305	340	330	+24	+8.2%	-10
ウェアラブル機器	346	370	370	+23	+6.8%	-
マイクロデバイス他	1,109	1,440	1,400	+290	+26.2%	-40
PC	189	200	200	+10	+5.3%	-
事業間売上収益	-30	-30	-40	-9	+29.9%	-10
セグメント利益	230	350	310	+79	+34.6%	-40
セグメント利益率	12.0%	15.1%	13.7%			

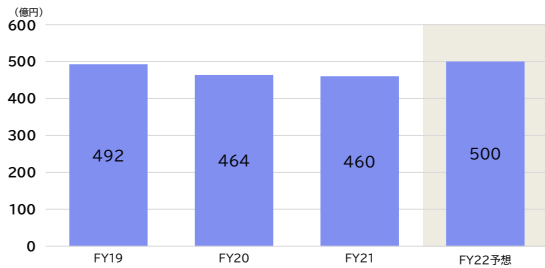
■ マニファクチャリング関連・ウェアラブル

- マニファクチャリングソリューションズは、中国市場の減速を織り込む
- マイクロデバイス他は、さまざまな用途の需要を捉えているものの、PC・スマートフォンなどの民生市場が軟調で、販売数量の減少を見込む

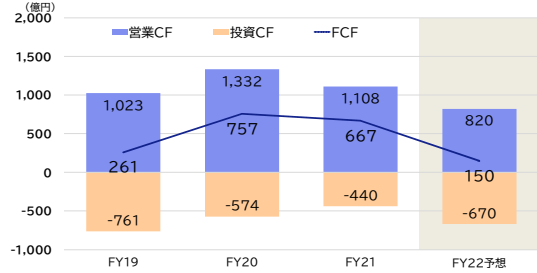
*2 ICハンドラー事業は2021年4月に譲渡

- 好調な需要が継続しているビジュアルコミュニケーションは、モデルミックス改善や価格対応を実施した第2四半期の状況を踏まえ、売上収益を 200億円 上方修正し 2,180億円、セグメント利益を 40億円 上方修正し 250億円とします。
- マニファクチャリング関連・ウェアラブルは、売上収益を 60億円 下方修正し 2,260億円、セグメント利益を 40億円 下方修正し 310億円とします。
- マニファクチャリングソリューションズは、中国市場の減速を織り込みました。
- マイクロデバイス他は、さまざまな用途の需要を捉えているものの、PC・スマートフォンなどの民生市場が軟調で、販売数量の減少を見込みます。

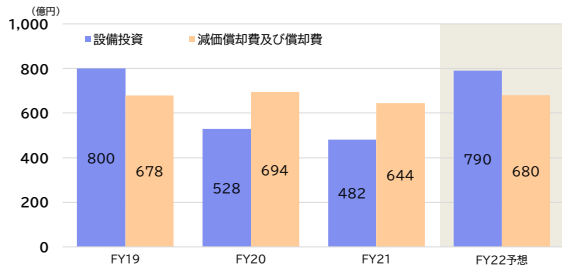
研究開発費



フリー・キャッシュ・フロー



設備投資・減価償却費及び償却費



主要経営指標	FY19 実績	FY20 実績	FY21 実績	FY22 予想	FY23 目標	FY25 目標
為替レート:USD	108.74	106.01	112.37	137.00	-	-
為替レート:EUR	120.85	123.67	130.55	138.00	-	-
売上収益 (億円)	10,436	9,959	11,289	13,900	-	-
事業利益 (億円)	408	616	896	1,000	-	-
親会社の所有者に帰属する 当期利益 (億円)	77	309	922	820	-	-
ROS ^{*1}	3.9	6.2	7.9	7.2%	8%以上	10%以上
ROA ^{*2}	3.9	5.6	7.4	7.5%	-	-
ROE ^{*3}	1.5	5.9	15.2	11.7%	10%以上	13%以上
ROIC ^{*4}	4.1	5.6	7.3	7.5%	8%以上	11%以上

^{*1} 売上収益事業利益率 = 事業利益 / 売上収益
^{*2} 資産合計事業利益率 = 事業利益 / 期首・期末資産合計平均
^{*3} 親会社所有者帰属時分当期利益率 = 親会社の所有者に帰属する当期利益 / 期首・期末親会社の所有者に帰属する持分平均
^{*4} 投下資本利益率 = 税引後事業利益 / (親会社の所有者に帰属する持分 + 有利子負債) / 親会社の所有者に帰属する持分および有利子負債は期首・期末平均

- 研究開発費は、前回予想から変更はありません。
- 設備投資は、将来成長に向け自動化や環境への投資も継続していきますが、主に為替影響により、前回予想から 20億円増加の 790億円とし、減価償却費は 20億円増加の 680億円としました。
- フリーキャッシュフローは、棚卸資産や設備投資の増加を反映した結果、前回予想より 150億円 下方修正し、150億円を予想します。
- 主要経営指標はご覧のとおりです。ROEは 11.7%を予想します。
- 引き続き、資本コストを意識し、収益性を重視した経営に取り組んでまいります。

■ 基本方針

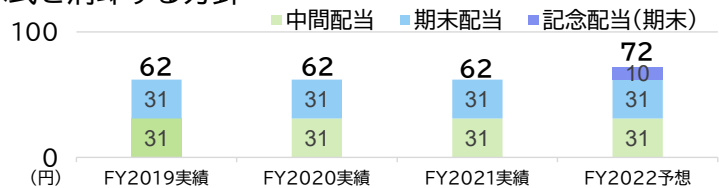
- 強固な財務構造の構築と、積極的な利益還元とに並行して取り組む
 - ✓ 中期的には連結配当性向*40%程度を目標 * 事業利益から法定実効税率相当額を控除した額を元に算出
 - ✓ 株価水準や資金の状況などを総合的に勘案し、必要に応じて機動的に自己株式を取得

■ 自己株式取得

- 取得期間:2022年5月20日～2023年5月19日
- 取得価額の総額:300億円(上限)
 - ✓ 2022年9月末の進捗状況:32.66%
 - ✓ 期間内に取得する自己株式は全株式を消却する方針

■ 配当実績・予想

- 創業80周年記念配当10円を加え年間配当を72円に増額



- 株主還元についてご説明します。
- 今年5月には、2022年度の配当予想は創業80周年 記念配当 10円を加え、年間配当を 72円に増額することと、300億円を上限とする自己株式の取得を発表しました。自己株式の取得は順調に進めています。

- ご説明のポイント
- 第2四半期実績
- 2022年度通期業績予想・株主還元
- トピックス

- インクジェットプリントヘッド生産能力増強のため、秋田エプソンに新棟を建設
 - 中長期的なIJP(大容量インクタンクモデルやプリントヘッド外販)の需要増加に対応
 - 2022年11月 建設開始、2023年12月 竣工予定



秋田エプソンの新棟(イメージ)

- 『インクジェット イノベーションラボ富士見』をリニューアル
 - インクジェットによる新たなものづくりを目指すパートナーとの共創拠点
 - インクジェット立体物印刷装置を新たに設置、プリントヘッドを使った実験環境を整備



イノベーションラボ富士見(イメージ)

- 最後に、トピックスをご紹介します。
- 中長期的なインクジェットプリンターの需要増加へ対応するため、秋田エプソンに新棟を建設し、プリントヘッドの生産能力を増強することを発表しました。
- また、インクジェットによる新たなものづくりを目指すパートナーとの共創拠点である「インクジェット イノベーションラボ富士見」をリニューアルしました。
立体物印刷やエレクトロニクス、バイオなど新たな分野におけるインクジェットイノベーションをパートナーと共に創出していきます。

「省・小・精」から生み出す価値で 人と地球を豊かに彩る

エプソンは、豊かな自然や文化に恵まれた信州で誕生しました。

そんな私たちが抱き続けてきたもの、それは「省・小・精」の技術で、人々の暮らしを豊かにしたいという想い、

そして、自然の豊かさを守り、未来へつないでいきたいという強い想いです。

これまで世界に先駆けてフロンを撤廃するなど、つねに社会課題に目を向け、誠実に取り組んできました。

そのなかで追求してきたエプソン独自の「省・小・精」。

大きいこと、量が多いことだけが豊かさではない。省くこと、小さくすること、精緻さを突き詰めること、

これこそが、自然環境にやさしく、人々のところを豊かにできるものだと思っています。

「省・小・精」から生み出す、より大きな価値で、人と地球を豊かに彩っていきたい。

私たちは、そんな想いを実現していきます。

- エプソンは今年9月にグループのパーパスを制定・公表いたしました。
- 「省・小・精」にこだわった製品・サービスを通して
お客様やパートナーの皆さまと共に社会課題を解決し、
人と地球が豊かに彩られる未来を実現してまいります。

EPSON
EXCEED YOUR VISION

補足資料

2022年度 第2四半期累計実績 | ハイライト

	2021年度		2022年度		前年同期比	
	(億円) Q2累計実績	%	Q2累計実績	%	増減額	増減率
売上収益	5,505		6,331		+825	+15.0%
事業利益	497	9.0%	495	7.8%	-2	-0.4%
営業利益	481	8.7%	591	9.3%	+110	+22.9%
税引前利益	478	8.7%	717	11.3%	+238	+49.9%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	364	6.6%	503	8.0%	+138	+38.0%
EPS* ¹ (円)	105.49		146.00			
為替レート (円、指数)	USD	¥109.77	¥133.97			
	EUR	¥130.84	¥138.70			
	その他通貨* ²	100	117			

為替影響額 (億円)	USD	EUR	その他通貨 合計	合計
売上収益	+405	+55	+282	+743
事業利益	-112	+34	+129	+51

*1 EPS:基本的1株当たり当期利益

*2 その他通貨の各レートを為替ボリュームに応じて
加重平均した値について、前年同期を100とした指数

2022年度 第2四半期累計実績 | プリンティングソリューションズ **EPSON** EXCEED YOUR VISION

(億円)

プリンティングソリューションズ	2021年度 Q2累計	2022年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	3,755	4,131	+375	+490	+10.0%
セグメント利益	550	397	-153	-1	-27.8%
セグメント利益率	14.7%	9.6%			

オフィス・ホームプリンティング	2021年度 Q2累計	2022年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	2,670	2,943	+273	+352	+10.2%
オフィス・ホームIJP(SOHO・ホームIJP)	2,068	2,338	+269		+13.0%
オフィス・ホームIJP(オフィス共有IJP)	249	267	+18		+7.4%
その他*	352	337	-14		-4.2%
事業利益	335	266	-69	-26	-20.7%
事業利益率	12.6%	9.0%			

商業・産業プリンティング	2021年度 Q2累計	2022年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	1,086	1,188	+102	+137	+9.4%
商業・産業IJP	771	836	+65		+8.5%
小型プリンター他	314	351	+37		+11.8%
事業利益	215	131	-83	+24	-39.0%
事業利益率	19.8%	11.1%			

(億円)

ビジュアルコミュニケーション	2021年度 Q2累計	2022年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	806	1,091	+285	+141	+35.4%
セグメント利益	92	191	+98	+9	+107.3%
セグメント利益率	11.4%	17.5%			

(億円)

マニファクチャリング関連 ウェアラブル	2021年度 Q2累計	2022年度 Q2累計	増減額	内為替 影響額	増減率
売上収益	954	1,132	+177	+119	+18.7%
マニファクチャリングソリューションズ*	167	174	+7		+4.3%
ウェアラブル機器	173	196	+22		+13.2%
マイクロデバイス他	544	686	+141		+26.1%
PC	84	96	+12		+14.4%
事業間売上収益	-14	-20	-5		-
セグメント利益	113	180	+67	+47	+59.2%
セグメント利益率	11.9%	15.9%			

* ICハンドラー事業は2021年4月に譲渡

主要商品の販売動向

			FY2021 Q1 実績	FY2021 Q2 実績	FY2021 Q3 実績	FY2021 Q4 実績	FY2021 通期 実績	FY2022 Q1実績	FY2022 Q2実績	FY2022 通期 予想	
*社内管理値に基づく指標 伸長率は前年同期比			USD	109.46	110.08	113.71	116.21	112.37	129.64	138.30	137.00
			EUR	131.91	129.77	130.08	130.45	130.55	138.11	139.28	138.00
オフィス・ホーム プリンティング	オフィス・ホーム IJP 本体	売上収益(円貨)	伸長率	+85%	+20%	+10%	+10%	+25%	+9%	+31%	+33%
		売上収益(現地通貨)	伸長率	+74%	+14%	+3%	+4%	+18%	-4%	+12%	
		本体数量	万台	+63%	+4%	-8%	-5%	+8%	-19%	-1%	+8%
		内 大容量インクタンクモデル	万台					約1,670			約1,800
		内 SOHO・ホーム向け/Cモデル	万台					約1,160			約1,330
	内 オフィス共有IJP	万台					約480			約440	
	オフィス・ホーム IJP インク	インク売上収益比率 インク÷(本体+インク)	構成比					41%			36%
		売上収益(円貨)	伸長率	-7%	-4%	-2%	+6%	-2%	+3%	+3%	+8%
		売上収益(現地通貨)	伸長率	-11%	-7%	-6%	+1%	-6%	-6%	-9%	
	ビジュアル コミュニケーション	プロジェクター 本体	売上収益(円貨)	伸長率	+72%	+7%	+6%	-12%	+12%	+13%	+60%
売上収益(現地通貨)			伸長率	+60%	+1%	-2%	-17%	+5%	+0%	+37%	
本体数量			万台	+67%	-2%	-5%	-25%	+2%	-3%	+22%	+9%
		本体数量	万台				約170			約190	

財務データ(2021年度・2022年度)

		(億円)									
		FY2021 Q1 実績	FY2021 Q2 実績	FY2021 Q3 実績	FY2021 Q4 実績	FY2021 実績	FY2022 Q1 実績	FY2022 Q2 実績	FY2022 Q3 実績	FY2022 Q4 実績	FY2022 予想
為替レート (円)	USD	109.46	110.08	113.71	116.21	112.37	129.64	138.30			137.00
	EUR	131.91	129.77	130.08	130.45	130.55	138.11	139.28			138.00
プリンティングソリューションズ	売上収益	1,923	1,832	2,053	1,990	7,799	1,976	2,155			9,500
	セグメント利益	266	283	308	205	1,064	210	186			1,030
オフィス・ホームプリンティング	売上収益	1,371	1,298	1,503	1,490	5,663	1,431	1,511			6,890
	事業利益	147	187	229	165	730	164	101			670
商業・産業プリンティング	売上収益	551	534	550	500	2,136	545	643			2,610
	事業利益	119	96	79	39	333	46	85			360
ビジュアルコミュニケーション	売上収益	407	399	436	346	1,590	456	635			2,180
	セグメント利益	44	47	40	21	153	64	127			250
マニファクチャリング関連・ウェアラブル	売上収益	495	458	474	491	1,919	560	572			2,260
	セグメント利益	56	56	61	56	230	86	94			310
全社費用・その他、調整額	売上収益	-4	-6	-2	-6	-20	-14	-10			-40
	セグメント利益	-126	-132	-137	-155	-552	-134	-139			-590
連結合計	売上収益	2,821	2,684	2,961	2,821	11,289	2,978	3,352			13,900
	事業利益	242	254	272	126	896	226	268			1,000
	ROS	8.6%	9.5%	9.2%	4.5%	7.9%	7.6%	8.0%			7.2%
研究開発費		113	117	113	115	460	109	113			500
設備投資	プリンティングソリューションズ	51	60	64	107	284	78	92			460
	ビジュアルコミュニケーション	9	9	9	13	41	14	13			80
	マニファクチャリング関連・ウェアラブル	14	21	32	45	113	17	30			160
	全社費用・その他	6	9	14	13	43	17	17			90
減価償却費	プリンティングソリューションズ	94	92	94	95	377	101	104			410
	ビジュアルコミュニケーション	26	25	25	25	103	27	26			100
	マニファクチャリング関連・ウェアラブル	21	21	21	22	87	23	24			100
	全社費用・その他	19	19	19	17	76	18	17			70
営業CF		213	349	310	234	1,108	-123	333			820
FCF		98	244	213	110	667	-309	186			150

海外売上収益・従業員数

海外売上収益

為替レート(円)	USD	107.54	106.16	104.48	105.86	109.46	110.08	113.71	116.21	129.64	138.30
	EUR	118.39	124.10	124.51	127.68	131.91	129.77	130.08	130.45	138.11	139.28

売上収益(億円)	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	FY21/Q1	FY21/Q2	FY21/Q3	FY21/Q4	FY22/Q1	FY22/Q2	対前年同期
米州	598	719	733	827	852	801	810	862	1,000	1,115	+313
欧州	397	500	587	598	583	571	623	617	573	683	+111
アジア・オセアニア	495	739	797	749	868	789	844	772	884	1,005	+216
海外売上収益計	1,490	1,959	2,119	2,175	2,304	2,162	2,278	2,252	2,457	2,804	+642
連結合計	1,932	2,459	2,788	2,779	2,821	2,684	2,961	2,821	2,978	3,352	+668

構成比	FY20/Q1	FY20/Q2	FY20/Q3	FY20/Q4	FY21/Q1	FY21/Q2	FY21/Q3	FY21/Q4	FY22/Q1	FY22/Q2
米州	31.0%	29.3%	26.3%	29.8%	30.2%	29.9%	27.4%	30.6%	33.6%	33.3%
欧州	20.6%	20.4%	21.1%	21.5%	20.7%	21.3%	21.0%	21.9%	19.2%	20.4%
アジア・オセアニア	25.6%	30.1%	28.6%	27.0%	30.8%	29.4%	28.5%	27.4%	29.7%	30.0%
海外売上収益計	77.2%	79.7%	76.0%	78.3%	81.7%	80.6%	76.9%	79.8%	82.5%	83.7%

従業員数

期末従業員数(人)	2020/6末	2020/9末	2020/12末	2021/3末	2021/6末	2021/9末	2021/12末	2022/3末	2022/6末	2022/9末	対前年同期
国内	19,962	19,723	19,620	19,470	19,827	19,805	19,788	19,705	20,128	20,131	+326
海外	57,107	59,287	62,618	60,474	60,813	60,000	59,917	57,937	59,887	62,742	+2,742
連結合計	77,069	79,010	82,238	79,944	80,640	79,805	79,705	77,642	80,015	82,873	+3,068

ESG インデックス 組み入れ・ 格付け

- FTSE4Good Index Series : 19年連続
- FTSE Blossom Japan Index : 6年連続
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Index: 初選定
- MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数 : 初選定
- MSCI日本株女性活躍指数 (WIN) : 6年連続
- S&P/JPXカーボン・エフィシエント指数 : 5年連続
- SOMPOサステナビリティ・インデックス : 11年連続
- CDP企業調査「Aリスト」企業 (分野:気候変動・水セキュリティ) : 2年連続
- CDP「サプライヤー・エンゲージメント・リーダー・ボード」 : 3年連続
- EcoVadis社のサステナビリティ評価「プラチナ」 : 3年連続
- 日本政策投資銀行(DBJ)環境格付け融資「ランクA」 : 初選定

ESG 関連表彰・ 銘柄選定

- 第3回日経SDGs経営調査「SDGs経営」総合ランキング最高位 : 2021年11月
- 第3回日経SDGs経営大賞「環境価値賞」 : 2021年11月
- 第3回ESGファイナンス・アワード・ジャパン 環境サステナブル企業部門「銀賞」 : 2022年2月
- 健康経営銘柄2022(電気機器業界1位)* : 2022年3月
- 日経225 : 2017年から選定

GPIFが採用する ESG国内指数5件全てに選定

FTSE Blossom Japan

FTSE Blossom Japan Sector Relative Index






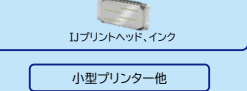




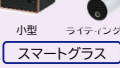













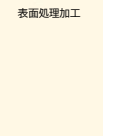




2022 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

2022 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数 (WIN)

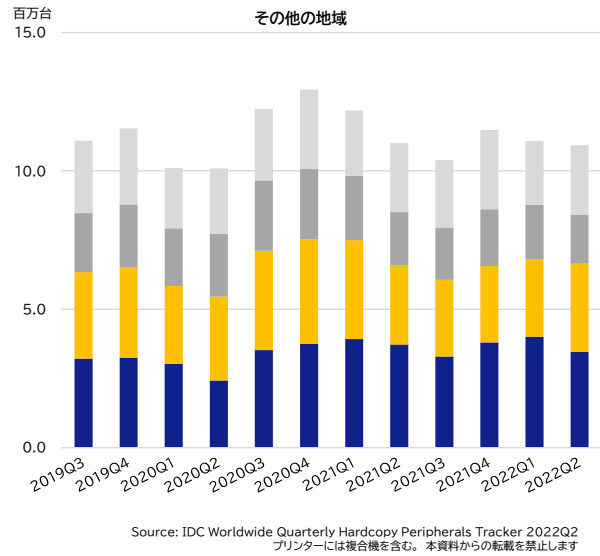
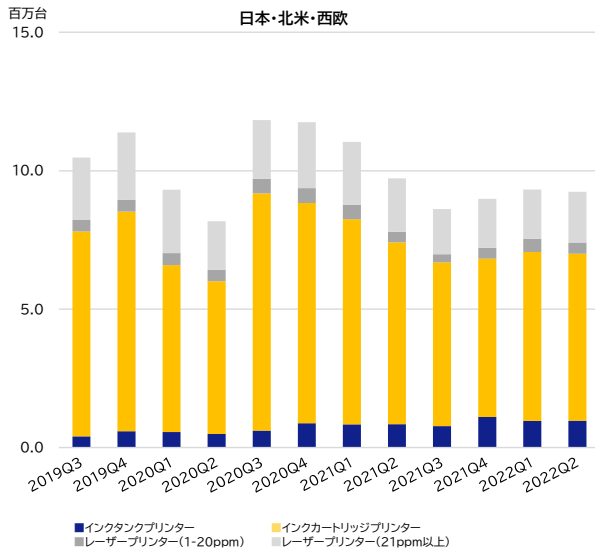
S&P/JPX カーボン エフィシエント 指数

緑字: 2022年4月以降に選定

* 健康経営の目的・体制 <https://corporate.epson/ja/sustainability/our-people/health-and-productivity.html>

イノベーション	オフィス・ホーム プリンティング イノベーション	商業・産業 プリンティング イノベーション	ビジュアル イノベーション	マニュファクチャリング イノベーション	ライフスタイル イノベーション		
セグメント	プリンティングソリューションズ		ビジュアル コミュニケーション	マニュファクチャリング関連・ウェアラブル			
事業 ・ 主要商品	オフィス・ホームプリンティング オフィス・ホームIJP SOHO・ホーム  大容量インクタンクモデル インクカートリッジモデル オフィス共有  大容量インクパックモデル (RIPS) ラインインクジェット複合機 (LJ) オフィス向けインクカートリッジモデル  SIDM スキャナー 乾式オフィス製紙機 レーザープリンター	商業・産業プリンティング 商業・産業IJP 完成品ビジネス  フォト コーポレート  サイネージ ラベルプリンター  テキスタイル ラベル印刷機 プリントヘッド外販ビジネス IJプリントヘッド、インク 小型プリンター他 小型プリンター 小型ラベルプリンター	プロジェクター 高光束  超短焦点  スタンダード  ホーム  小型 ライティング  スマートグラス 	マニュファクチャリングソリューションズ ロボット  スカラ  6軸  オプション  小型射出成形機 	ウェアラブル機器 エプソンブランド  TRUME  オリエント  ムーブメント  セイコービジネス 	マイクロデバイス他 マイクロデバイス  半導体  エプソンダイレクトPC  微細合金粉末  表面処理加工 	PC  エプソンダイレクトPC 

A4サイズプリンターのタイプ別市場推移(暦年)



I/C	Ink Cartridge, インクカートリッジ
IJP	Inkjet Printer, インクジェットプリンター
LIJ	Line Inkjet Printer, 高速ラインインクジェット複合機
LP	Laser Printer, レーザープリンター(複合機含む)
RIPS	Replaceable Ink Pack System, 大容量インクパックモデル
大容量インクタンクモデル	エコタンク搭載インクジェットプリンター
大容量インクモデル	大容量インクタンクモデル、大容量インクパックモデル(RIPS)、高速ラインインクジェット(LIJ)の総称
SOHO	Small Office Home Office, 小規模オフィス・ホームオフィス
オフィス共有IJP	商品カテゴリーの1つ。高プリントボリュームオフィス向けプリンター。I/Cモデル,RIPS,LIJを含む
商業・産業IJP完成品ビジネス	商業・産業用大判インクジェットプリンター本体・インク・サービスなどを含む
プリントヘッド外販ビジネス	プリントヘッド、インクなどを含む
Epson Connect	エプソンの商品・サービスを対象としたモバイル・クラウドサービス
Color Control Technology	商業・産業印刷における色再現性を高めるカラーマネジメント技術
分散印刷	同一内容の印刷データを複数のプリンターを用いて印刷する方法
SIDM	Serial Impact Dot Matrix Printer
3LCD	プロジェクター方式の1つ。液晶パネル3枚を使う方式
高光束プロジェクター	交換レンズ機能付き高輝度プロジェクター
FPD	Flat Panel Display, フラットパネルディスプレイ
OLED	Organic Light Emitting Diode(有機EL)
WP	ウェアラブル機器事業
MD他	マイクロデバイス他事業

EPSON
EXCEED YOUR VISION